

LUXつうしん

2025年12月末まで

DELL

Dell Pro 14

NBLA143-003N1

営業

- CPU : AMD Ryzen5 220
- メモリ : 16GB
- ストレージ : 512GB
- ドライブ : なし
- 画面 : 14型
- 重量 : 1.35Kg
- OS : Windows11Pro
- Office : H&B 2024

110,000円
(税抜)



NEC

Giga対応 スイッチングハブ

LSW6-GT-5NS/WH

ハブ 事務所

- 5ポート
- ギガ対応
- 背面マグネット
- ループ検知

4,500円
(税抜)



技術検証

国産パブリッククラウドの検証

当社では各パブリッククラウドの検証を進めています。昨今の円安状況、値上げ状況を加味して、為替リスクや従量課金がある超大手のサービスではなく、国産のサービスの検証に注力しています。

特に使用感が良かったのは、「さくらのクラウド」と

GMOクラウド「ALTUS Advance」です。

ALTUS Advanceは今年9月末にリリースされたばかりの新サービスですでの、さくらのクラウドに比べると機能不足は否めないものの、機能実装の予定が公表されていたので、再来年度あたりのサーバーリプレイスを控えていれば検討の余地はあるかもしれません。

実際当社とVPNを繋いで触ってみると、サーバーとしては全く遜色ありませんでした。

コストに興味のある方は以下のリンクをご参照ください。

GMOアルタス⇒<https://altus.gmocloud.com/advance/price/>

いま注目の「SASE」「EDR」



最近のサイバー攻撃は、ただウイルスを入れるだけでなく、社内に入り込んで情報を盗んだり、業務を止めたり（ランサムウェア等）するケースが増えています。そこで話題なのが SASE（サシー）と EDR（イーディーアール）です。国内大手飲料メーカーA社もサイバー攻撃を受けて、導入を検討しています。

SASEはネットワークに関係するもの、EDRはサーバーやパソコンなど端末に関係するものです。

今までのVPNや従来のウイルス対策（EPP）を、在宅・出先・クラウド利用が増えた今の働き方に合う形で強化できます。

1) VPNのイメージ（これまで多かった形）

VPN※は「外から会社の中に入るための通路」です。※ここではリモートアクセスのことを指します。

便利ですが、もしIDやパスワードが漏れてしまうと、悪い人も同じ通路から入れてしまう可能性があります。

[外] —> VPNトンネル（通路） —> [会社のネットワーク]

2) SASEのイメージ（必要なものだけにつなぐ）

SASEは、クラウド側で安全チェックをしながら、必要な業務アプリだけに接続する考え方です。

「社内ぜんぶに入る」ではなく「使うものだけ」を基本にできるので、万一のときも被害が広がりにくくなります。

- ・アプリごとにアクセスを絞れる（必要最小限）

- ・在宅・出先でも同じルールで守れる

- ・Webやクラウドサービスの利用もまとめて管理しやすい

[社員PC] —> [SASE（安全チェック）] —> [メール／クラウド／業務アプリ]

- ・危険サイトをブロック

- ・ルールを統一

3) EDRのイメージ（もし入られた後の見張り役）

従来のウイルス対策（EPP）は「入れないように防ぐ」が中心です。

EDRはそれに加えて、端末の中の動きを見守り、怪しい動きがあれば気づいて止めることが得意です。

- ・いつもと違う動きを早めに発見

- ・端末をネットワークから隔離して被害拡大を防ぐ

- ・原因調査や復旧につなげやすい

[PCの中] いつも見守る

怪しい動き！ → 端末を隔離・調査 → 被害拡大を防止

まとめ：おすすめは「SASE × EDR」

SASE：入口を賢くして「必要なところだけ」につなぐ

EDR：端末を見守って「おかしい」を早めに止める

当社では、現在のVPNやウイルス対策の状況を確認しながら、無理のない範囲で段階的に強化するご提案が可能です。

EDRでは1ライセンスから購入可能なサイバーリーズン社の[Simple Security]を販売することが決定しました。来年度の経費計画の際にぜひ一度ご検討ください。

サイバーリーズン⇒<https://www.cybereason.co.jp/products/simple-security/>